

## 県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	U15
大会名	令和5年度 第53回関東中学校バスケットボール大会		
期間	2023年8月7日～9日		
会場	日環アリーナ栃木		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月3日	審判会議、レクチャー	オンライン形式	
8月7日	男女1回戦	日環アリーナ栃木	
8月8日	男女2回戦・準々決勝	日環アリーナ栃木	
8月9日	男女準決勝・決勝	日環アリーナ栃木	
会議 講義 内容			
<p>指名審判員の茂泉氏、東條氏、古畑氏の3名より「S級審判員になるために取り組んだこと」というテーマでレクチャーを頂いた。概要は以下の通り。</p> <p>○茂泉氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験を積むために、職場や家庭の調整が重要。</li> <li>・割当をもらうだけでなく、「課題」や「目的意識」を持って取り組むことが必要。そして「振り返り」まで行う。</li> <li>・上位ライセンス保有者から話を聞くだけでなく、聞いたことをゲームで活用することが大切。</li> <li>・「メンタルが弱い」という理由では何も解決しない。「知識を深める」→「自信を深める」→「いい判定」という流れを大切にする。</li> </ul> <p>○東條氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな大会やイベントをチャンスとして捉え、チャンスを掴むことが重要。</li> <li>・ステップアップのためには、都合の提出が大前提。また自分のカテゴリーより上の試合をどれだけ吹けるかにこだわる。</li> <li>・できる限り試合を観に行くこと。ゲームや会場の雰囲気を感じて、判定の引き出しを増やす。「自分だったら」という視点を常に持つこと。</li> <li>・映像検証では「正しいメカニクス」と「正しい判定」にこだわる。映像からのインプット、オンザコートでのアウトプットを大切にする。</li> <li>・マンツーマンペナルティについての説明。</li> </ul> <p>○古畑氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある出来事をきっかけに自分の気持ちに気づく。古畑氏の場合、コロナ禍でバスケットボールが止まったことをきっかけに「審判をしたい」という気持ちに気づいた。</li> <li>・カラーバス効果について。ある1つのことを意識することで、それに関する情報が無意識に自分の手元に集まってくる。</li> <li>・最高の経験を通して、なりたい自分を疑似体験する。古畑氏の場合は、WJBLプレーオフを現地観戦することでオンザコートに立つ自分の姿をイメージした。またBLGチャレンジを経て、当たり前でないことを当たり前にしたという気持ちが芽生えた(この場合は、女性が男子ゲームを担当することを当たり前にした)。)</li> <li>・S級ライセンスを保有することで、「周りへ還元していくこと」や「足跡を残していく」ことが重要だと考えている。</li> </ul>			

実技

担当試合	期 日	8月8日	男子 女子	準々決勝
	対戦カード	豊田(神奈川) VS 豊里(茨城)	CC	U1 U2
	相手審判	CC:東條氏(指名) U1:若林 U2:小野里氏(群馬)		

ミーティング内容 主任 自己反省

- ・全体的に大きな現象もなく、スムーズにゲームが進んだ。
- ・ダブルヘッダーの2試合目ということもあり、影響の見極めが難しい面があった。結果的に負傷退場したケースも大きな接触が原因ではないが、少し足が引っかかったことで腰を痛めてしまった。
- ・全体的に笛数が少ないゲームだからこそ、コールしたものが色々な意味で目立つ。このレベルのゲームはディフェンスはギリギリまで守ってくるし、オフェンスは力強くリングへ向かってくる。レフェリーディフェンスを追求し続けることで、ラフにならず、且つダイナミックなプレーを引き出すことができる。

担当試合	期 日	8月9日	男子 女子	準決勝
	対戦カード	相模女子(神奈川) VS 昭和学院(千葉)	CC	U1 U2
	相手審判	CC:渡邊諭氏(栃木) U1:石鍋氏(東京) U2:若林		

ミーティング内容 主任 梶氏(栃木)

- ・早い時間帯で点差が開いたこともあり、スムーズにゲームが進んだ。
- ・女子中学生のゲームということで、体が弱いのですぐにプレーヤーが崩れる。崩れた原因がイリーガルな接触なのか、それともプレーヤーの弱さが原因なのかを追求していく必要がある。
- ・トスアップ直後のプレーはトレイル(トスアップしたCC)が判定に参加していくことが難しい。結果的にファーストプレー(ドライブ)はゲームの基準を示すうえでもコールしたいものだった。センターとリードが判定することが大切。
- ・(個人に対して)突発的に起きたプレーを突発的に判定している印象がある。なぜその接触が起きたのか、どちらにより大きな責任があるのか、をもっと把握することが必要。

全体の感想

まず初めに、開催県である栃木県バスケットボール協会の皆様、今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会、また日頃からご指導してくださっている方々へ感謝申し上げます。2泊派遣ということで、準々決勝(全中出場決定戦)と準決勝を担当させて頂きました。

今大会は今の自分の課題や取り組み方について、改めて見つめ直すきっかけになりました。端的に表現すると、今の吹き方では不十分だと思いました。「ゲームをスムーズに運営して、無事に終わらせたい」と思って常にコートに立っていますが、もっともっと自分自身に課題を設定して取り組む必要があると感じました。特に「コールしたもの」についての吟味がもっと必要だと感じました。このレベルだからこそ、オフェンスもディフェンスもギリギリまでプレーしてきます。そのプレーをギリギリまで見極める見方が必要だと思いました。指導者、プレーヤー、観客のために、より正しく、ダイナミックなプレーを引き出せるよう今後も精進していきます。

以上で派遣報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。